

| | | | | | |
|---|----------------------|-----|--|------|--------------|
| 科目名 | | | 授業の種類 | | 授業担当者 |
| 特別支援教育 I | | | 演習 | | 杉村 僚子 |
| 学年 | 単位 | 時間数 | 授業回数 | 履修時期 | 選択・必修 |
| 2 | 1 | 30 | 15 | 前期 | 幼免：必修 保育士：必修 |
| 〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園や保育所、認定こども園、児童発達支援センターなどにおいて、特別な支援を要する子どもの保育を行う際に必要な基本的知識を身につける。 | | | | | |
| 〔授業全体の内容と概要〕 障害の概念や関連する諸理論、障害児保育、特別な支援を必要とする子どもの保育の歴史の変遷、主要な障害の特性と援助の方法などの基本的知識を理解する。また、子どもへの直接的支援だけではなく、子どもを取り巻く環境に着目した支援の方法について学ぶ。毎回、レジュメを配布し、そのレジュメに沿って授業を進めていく。授業の内容に関連した課題(小レポート、グループ討論、発表など)を通して、理解を深める。 | | | | | |
| 〔受講上の注意事項〕 ・ 授業の中で、レポート課題や小グループでの話し合いを実施するので、これらの課題に積極的に取り組み、理解を深めること。 ・ 授業時に配布した資料を適切に管理し、毎回持参していつでも参照できるようにすること。 | | | | | |
| 〔使用テキスト〕 新・基本保育シリーズ⑩ 障害児保育 (西村重稀・水田敏郎編集 中央法規) | | | 〔評価基準〕 期末試験(60%)と授業中の課題(40%) | | |
| 〔授業の日程と各回のテーマ・授業内容〕 | | | | | |
| 回 | 項目 | | 授業内容 | | |
| 1 | 特別な支援を必要とする子どもの保育の基本 | | 障害の概念、障害児保育、特別な支援を必要とする子どもの保育の歴史の変遷について学び、特別支援教育の基本的理念を理解する。 | | |
| 2 | 乳幼児期の発達と障害 | | 運動、認知、言語、コミュニケーション、基本的な生活習慣など発達を捉える観点と乳幼児期の発達の様相について理解する。 | | |
| 3 | 知的障害の理解 | | 知的障害の捉え方や分類、知的障害をもつ子どもの特徴について学ぶ。 | | |
| 4 | 知的障害をもつ子どもへの援助 | | 知的障害や知的障害をもつ子どもの特徴について理解した上で、保育現場における支援の方法について学ぶ。 | | |
| 5 | 発達障害とは | | 発達障害の定義や具体的障害、脳の機能障害、薬物療法、二次障害など発達障害の基本的事項について理解する。 | | |
| 6 | 自閉スペクトラム症の理解 | | 自閉スペクトラム症の概念や特性、自閉スペクトラム症をもつ子どもの特徴について学ぶ。 | | |
| 7 | 自閉スペクトラム症をもつ子どもへの援助 | | 自閉スペクトラム症の特性や子どもの特徴について理解した上で、保育現場における支援の方法について学ぶ。 | | |
| 8 | 注意欠如・多動症の理解 | | 注意欠如・多動症の特性や子どもの特徴について理解する。 | | |
| 9 | 注意欠如・多動症をもつ子どもへの援助 | | 注意欠如・多動症の特性や子どもの特徴について理解した上で、保育現場における支援の方法について学ぶ。 | | |
| 10 | 限局性学習症の理解 | | 限局性学習症の定義や特性、幼児期にみられる萌芽的特徴について理解する。 | | |
| 11 | 限局性学習症をもつ子どもへの援助 | | 限局性学習症の特性や子どもの特徴について理解した上で、保育現場における支援の方法について学ぶ。 | | |
| 12 | 視覚障害の理解と援助 | | 視覚障害の定義や分類、障害特性について理解した上で、支援の方法について学ぶ。 | | |
| 13 | 聴覚障害の理解と援助 | | 聴覚障害の定義や分類、障害特性について理解した上で、支援の方法について学ぶ。 | | |
| 14 | 子ども同士のかかわりと育ち合い | | 障害児保育の形態について理解し、子ども同士のかかわり、育ち合いについて学ぶ。 | | |
| 15 | まとめと試験 | | これまでの内容を総括し、試験を行う。 | | |
| 実務教員としての経歴 | | | | | |
| 実務経験と授業の関連 | | | | | |